

市川三郷町からフィリピンへ桑の葉産業技術を移転 桑の葉使った製品で、健康改善にも寄与

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社桑郷(山梨県西八代郡市川三郷町、楠 三貴代表取締役)が提案する「パンパンガ州における桑の葉茶事業案件化調査」(フィリピン)を採択しました。

フィリピンのパンパンガ州は、かつては有数のサトウキビ栽培州でしたが、25年前のピナツボ火山の大噴火以来、農地に堆積した火山灰の影響によるサトウキビの栽培面積の減少やその収量の低下への対策が長年の課題となっています。一方、フィリピンは養蚕国の一つとして、長年に亘り桑の栽培が行われており、パンパンガ国立農業大学では、サトウキビの代替作物として桑に高い関心を持っています。また、近年、マニラなどの大都市では経済成長に伴い健康食品・飲料の市場が加速的に拡大しています。



パンパンガ国立農業大学の協力の下、試験的に現地で桑を栽培している(写真提供/桑郷)

このような背景の下、(株)桑郷はパンパンガ国立農業大学と協力し、糖尿病などの生活習慣病予防に効果がある成分を含む『桑の葉』を生産し、桑茶や関連食品の開発・普及を目指します。

(株)桑郷は、市川三郷町(山梨県)において、桑の葉生産を通じてかつて桑栽培が盛んだった集落の再生に貢献しています。

本案件化調査では、国内で培った桑の葉栽培から製品開発・製造、販売に至るバリューチェーンの独自の事業モデルをパンパンガ州において展開し、桑の葉産業のクラスターの構築を実現するための調査を行います。また、それにより、地域経済の活性化、農民を含むクラスター関係者の所得向上に貢献することも期待されます。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。120件の応募のうち34件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

■参考:(プレスリリース)案件化調査 2015年度第2回公示の採択結果について

http://www.jica.go.jp/press/2015/20160222_01.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 横浜国際センター 担当: 原田・広瀬・須藤
TEL 045-663-3252 e-mail: yictad@jica.go.jp